

# Rumble™ LT25

## BASS AMPLIFIER



オーナーズマニュアル(増補版)

Fender®

# 目次

はじめに	1
コントロールパネル	2
基本プリセット	3
プリセットの編集と保存	4
プリセット内容へのアクセス	4
アンプコントロール設定の編集と保存	4
プリセットに指定したアンプモデルの変更	7
Rumble LT25内蔵アンプモデル一覧	8
エフェクトコントロール設定の編集と保存	9
エフェクトの変更、追加と削除	10
タップボタンによるディレイタイムの設定	12
Rumble LT25内蔵エフェクトモデル一覧	13
メニュー機能	14
チューナー	15
フットスイッチ	16
セッティング	17
リストア(復元)	17
AUX入力とヘッドフォン出力	18
USBポート	18
仕様	19

## はじめに

この拡張版オーナーズマニュアルは、Rumble LT25アンプの特徴と機能に対する詳細なユーザーガイドです。

各アンプ付属のRumble LT25クイックスタートガイドを補足するものとして、本マニュアルでは、アンプの多用途な機能の詳細を説明しています。これには、基本操作と内蔵プリセットの変更、アンプとエフェクトモデルの広範囲な説明が含まれます。また、Rumble LT25内蔵オンボードチューナー、フットスイッチ、USBポート、およびその他機能を使用する段階的な説明も含まれています。

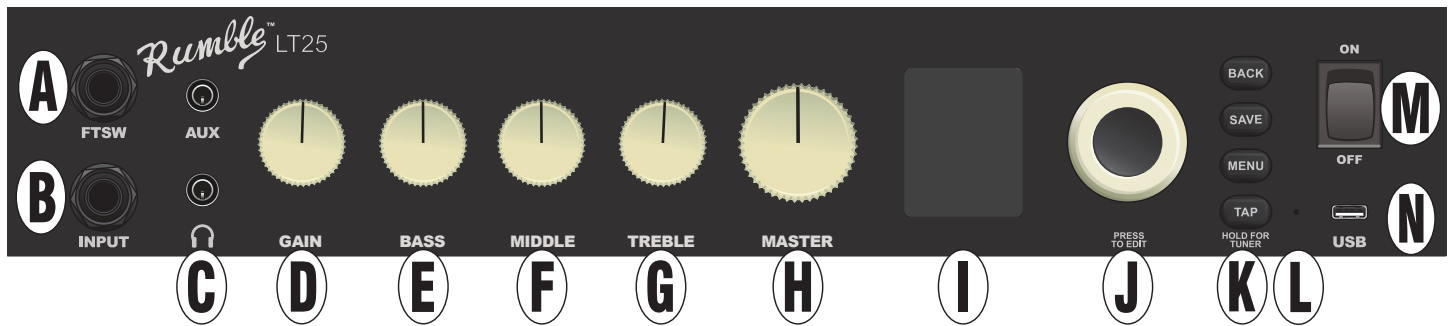
本拡張マニュアルは、最新版のアンプを紹介していますが、Rumble LT25とその機能が発展するにつれて、さらに役に立つガイドとして活用できる、最新版のマニュアルもチェックしてください。

Rumble LT25の操作性を向上させるためのファームウェアの更新がないか、定期的に[fender.com/firmware/support](https://www.fender.com/firmware/support)を確認してください。



## コントロールパネル

Rumble LT25のトップコントロールパネルは、インストゥルメント入力、5つのコントロールノブ、ディスプレイウィンドウ、エンコーダーホイール、4つのユーティリティプッシュボタン、フットスイッチ入力、AUX入力(1/8 インチ)、ヘッドフォン出力(1/8インチ)、TAP LIGHTとUSB PORTで構成されています。

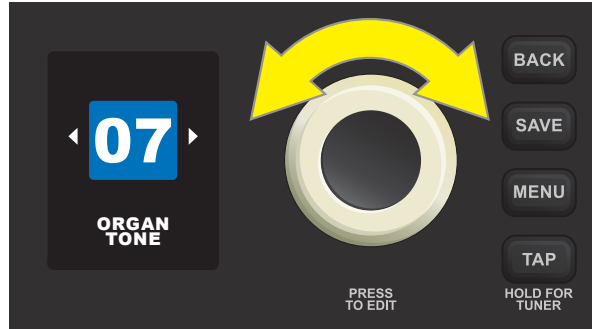


- A. **FOOTSWITCH (フットスイッチ) (“FTSW”)**: オプションの1ボタン式フットスイッチを接続します(16ページ)。
- B. **INPUT (入力)**: 楽器を接続します。
- C. **AUX 入力、ヘッドフォン出力**: 外部オーディオ機器を接続する1/8インチのAUX入力、およびヘッドフォン用の1/8インチ出力(18ページ)。ヘッドフォン出力は、スピーカー機能を無効にします。
- D. **GAIN (ゲイン)**: 各プリセットのゲイン設定に使用します。
- E. **BASS (低域)**: 各プリセットの低音域設定に使用します。
- F. **MIDDLE (中域)**: 各プリセットの中音域設定に使用します。
- G. **TREBLE (高域)**: 各プリセットの高音域設定に使用します。
- H. **MASTER VOLUME (マスター音量)**: 全体的な音量をコントロールします。
- I. **DISPLAY WINDOW (ディスプレイウィンドウ)**: 使用中のプリセット、プリセットの内容とパラメータ、その他の機能(チューナーなどのメニュー機能)を表示します。
- J. **ENCODER (エンコーダー)**: 押しスイッチ機能付き回転式コントロール。Rumble LT25のプリセット、コントロール、その他機能の表示、選択、調整用に使用します。
- K. **UTILITY BUTTONS (ユーティリティボタン)**
  - BACK (戻る)**: 前の画面、または元のプリセット画面に戻ります。
  - SAVE (保存)**: プリセットの変更を保存、プリセットの名前を変更、プリセットを新しい場所に保存します。
  - MENU (メニュー)**: チューナー、フットスイッチなどの機能にアクセスします(14ページ)。
  - TAP (タップ)**: デイレイタイムの設定(12ページ)と内蔵チューナーへのアクセス(15ページ)用。
- L. **TAP LIGHT**: デイレイタイムに合わせて点滅します。
- M. **POWER (電源)**: アンプの電源をオン/オフします。
- N. **USB ポート**: USBオーディオ録音用のアンプ接続ポイントです(18ページ)。
- O. **IEC 電源コード差し込み口(後部パネル、未掲載)**: 付属の電源コードを使用して、電源インレット指定の入力電源電圧と周波数に従って、アース付コンセントに接続します。

## 基本プリセット

Rumble LT25は、1番から30番までの番号付けされたプリセットを備えています。各プリセットは、アンプと1個以上のエフェクトで構成されています(エフェクトが付随されていないケースもあります)。アンプの電源をオンにすると、デフォルトのアクティブプリセットは、常に工場出荷時のプリセット01になります。また、“REPLACE”機能(7ページ)を使うと、20個の追加プリセットが利用できます。

プリセットをスクロールさせるにはENCODERを回します。どのプリセットが表示されていても有効になります。



Rumble LT25の工場出荷時のプリセット30個は次のとおりです:

- |                            |                         |                       |
|----------------------------|-------------------------|-----------------------|
| <b>01</b> STUDIO CLEAN     | <b>11</b> FLANGER BASS  | <b>21</b> RUMBLE OD   |
| <b>02</b> STUDIO SQUEEZE   | <b>12</b> BAY AREA PUNK | <b>22</b> BIG ECHO    |
| <b>03</b> RUMBLE           | <b>13</b> PUNCHY OCTAVE | <b>23</b> WAH ECHO    |
| <b>04</b> ELEKTRIK UPRIGHT | <b>14</b> CHORUS        | <b>24</b> WARM WAH    |
| <b>05</b> DIRTY ROCKBASS   | <b>15</b> FILTHY PUNCH  | <b>25</b> SHOWMAN OD  |
| <b>06</b> FAT OLD BASSMAN  | <b>16</b> HAND OF DOOM  | <b>26</b> HESHER      |
| <b>07</b> ORGAN TONE       | <b>17</b> 70S ROCK      | <b>27</b> PHASER BASS |
| <b>08</b> SLAP BASS        | <b>18</b> FAT BOTTOM    | <b>28</b> TREMOLO     |
| <b>09</b> SYNTH FUZZ       | <b>19</b> MONSTER BOT   | <b>29</b> AUDIO RAGE  |
| <b>10</b> VINTAGE FUZZ     | <b>20</b> GRUNGE        | <b>30</b> CLICKY PICK |

REPLACE機能を使うことで、さらに以下20個のプリセットを使用できます。7ページ参照:

- |                           |                           |                           |
|---------------------------|---------------------------|---------------------------|
| <b>31</b> DARK ROOM       | <b>38</b> STEP AND GRIND  | <b>45</b> BASS ODYSSEY    |
| <b>32</b> BIG SUSTAIN     | <b>39</b> SHOWMAN BOT WAH | <b>46</b> 300 GRIT        |
| <b>33</b> SPACE PAD       | <b>40</b> GRITS N CREAM   | <b>47</b> FEEL THE PAIN   |
| <b>34</b> BUZZ BOMB       | <b>41</b> WARM BOT WAH    | <b>48</b> SLAPPY SCOOP    |
| <b>35</b> WARM CHORUS     | <b>42</b> HEART BREAKER   | <b>49</b> SOCAL SKA PUNK  |
| <b>36</b> 80S BRIT        | <b>43</b> CHORUS DIRT     | <b>50</b> GOOD TO BE KING |
| <b>37</b> MONSTER BOT WAH | <b>44</b> ANCIENT MARINER |                           |

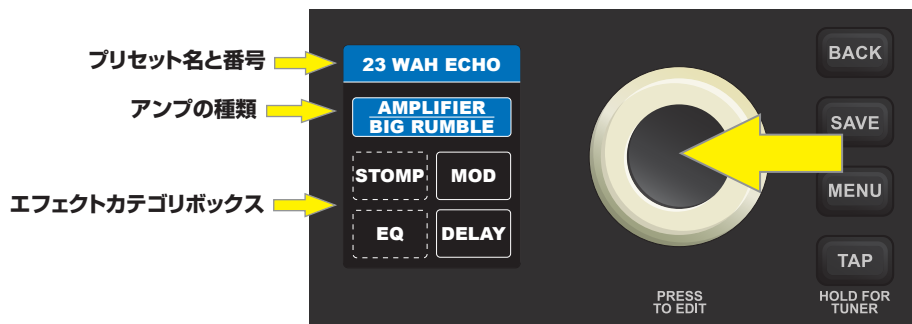
## プリセット編集と保存

プリセットは簡単に編集でき、必要に応じて名前を変更してその場所、または別の場所にセーブできます。その他にも、各アンプタイプのコントロール調整、アンプモデルを別のモデルに変更でき、さまざまなエフェクトとコントロールの調整、プリセットの削除／追加ができます。

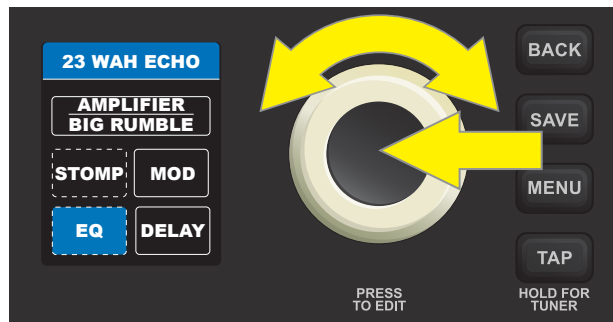
プリセットが有効な状態だと、その番号を含むボックスは、編集が行われていないことを示す、青になります。編集が行われると、プリセット番号を含むボックスが赤に変わり、プリセットタイトル画面に「UNSAVED」と表示されます。編集内容が保存されると、番号のボックスが青に戻り、「UNSAVED」のタイトルが消えます。

### プリセット内容へのアクセス

プリセット内容にアクセスするには、ENCODERを押します。DISPLAY WINDOWには、上から下にプリセット番号と名前、使用中のアンプの種類、プリセットで使用されるエフェクトを構成する4つのボックスが表示されます。これらのエフェクトカテゴリボックスには、STOMP(ストンプボックス)、MOD(モジュレーション)、EQ、DELAYというラベルが付いています。プリセット内容に最初にアクセスすると、プリセット名とアンプの種類が青でハイライト表示されます。:

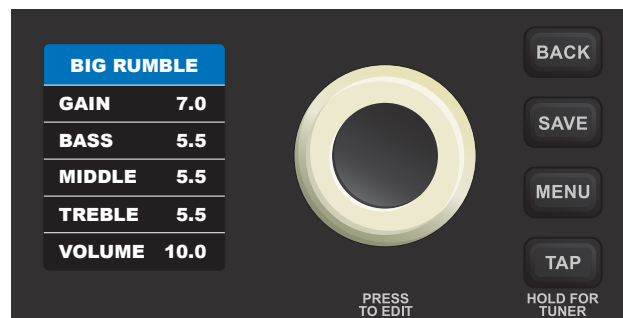
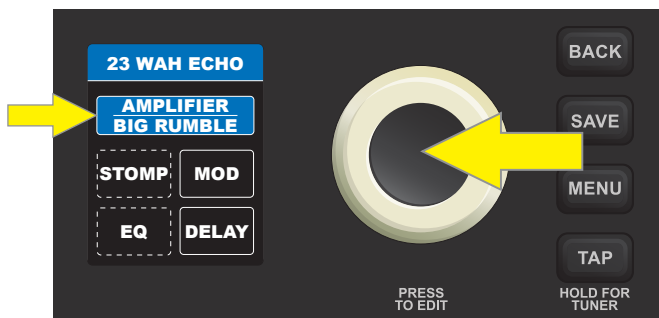


ENCODERを回して、アンプモデルまたは、エフェクトカテゴリボックスのひとつを選択しエンコーダーを押します。すると、その際に有効な選択肢が青でハイライト表示されます:

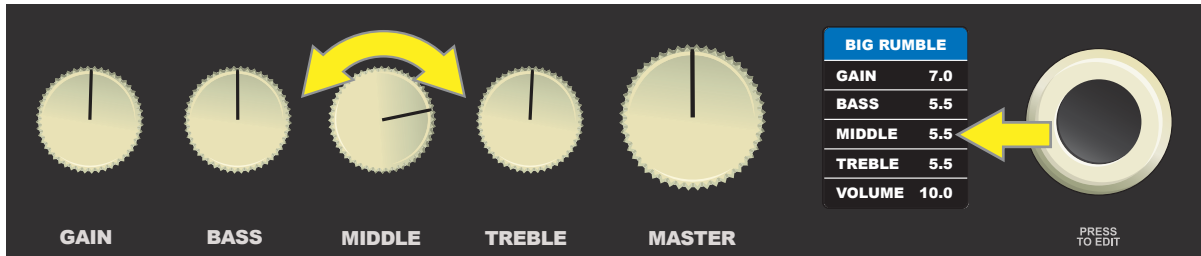


### アンプコントロール設定の編集と保存

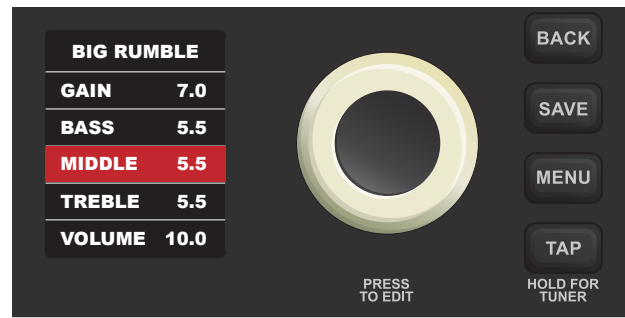
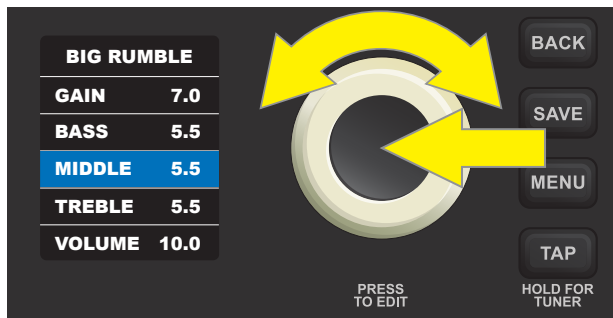
プリセットのアンプモデル個々のコントロール設定を編集して保存するには、まずENCODERを押して、アンプモデルを選択します。DISPLAY WINDOWに、使用中のアンプモデルのコントロール一覧が表示されます:



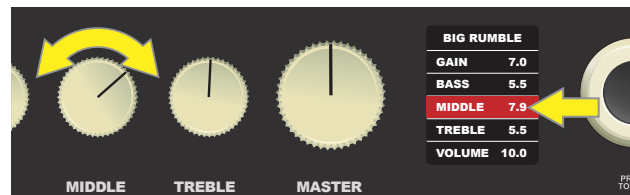
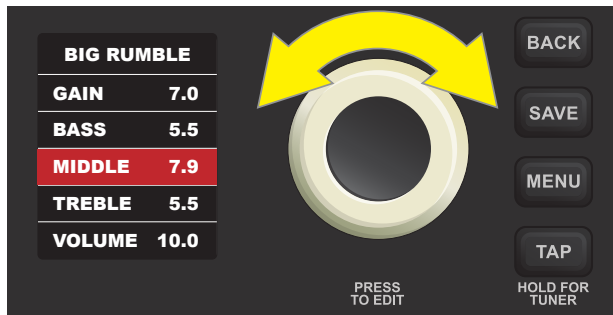
コントロールノブによる設定の調整方法は2つです。1番目の方法は、コントロールパネル上のノブを回してディスプレイウィンドウ内の値を設定します。例として、アンプモデルのMIDDLEを設定する場合は、コントロールパネルのMIDDLEノブを回して調整します：



2番目の方法は、ENCODERを回して選択したいパラメータでエンコーダーを押します。選択されたボックスは、青から赤に変わります：

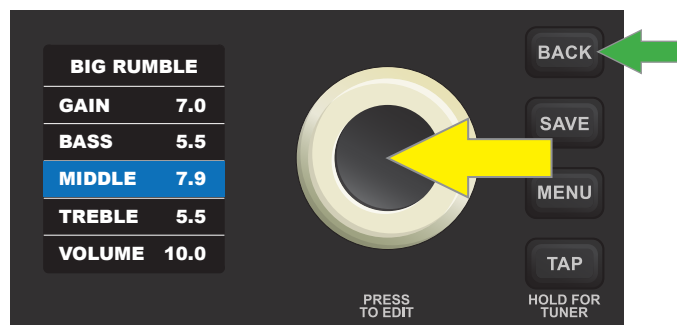


その後、ENCODERを回すか、コントロールパネルに対応するコントロールノブを回して(存在する場合は\*)調整できます：



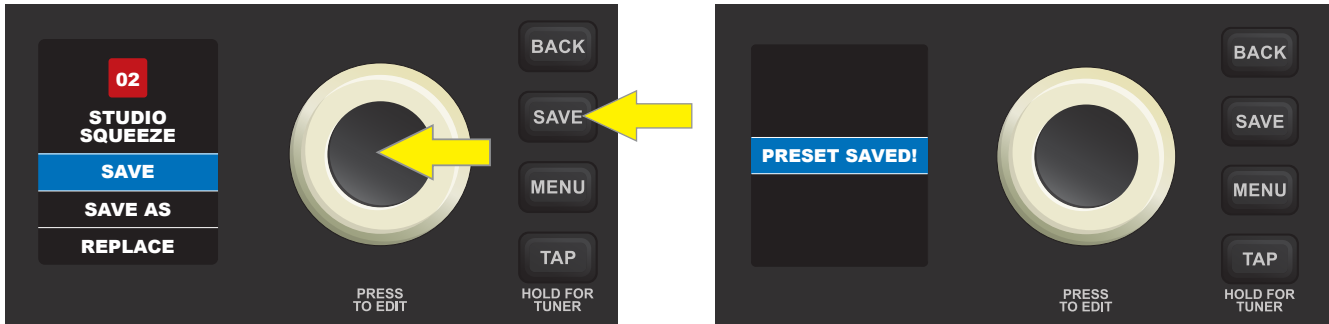
VOLUMEのように、コントロールパネルにノブがないパラメータの場合は、これが唯一の調整方法です。

この時点で、ENCODERまたは、BACKユーティリティボタン(緑の矢印部分)を押して、調整したコントロール値を確定させます。BACKを押すと、プリセット内容画面に戻ります。ENCODERを押すと、コントロール設定の変更を続けられ、コントロール設定を囲むボックスが青に戻ります。設定の編集が完了したら、SAVEユーティリティボタンを押して、変更をプリセットに保存します。



**重要:**編集したアンプのコントロール設定を保存しない場合、しばらく使わなかった後でプリセットを使う時、または電源をオフにして再びオンにした時、そのプリセットは元の設定に戻ります。編集したコントロール設定を保存するには、SAVEユーティリティボタンを押し、ENCODERを使用して、SAVE、SAVE AS、REPLACEの3つのオプションいずれかにスクロールします。それぞれの詳細は以下の通りです。

**SAVE:**編集したプリセットを同じ場所に同じ名前で保存します。これを行うには、SAVEのユーティリティボタンを押し、ENCODERを使用して「SAVE」までスクロールします。もう一度SAVEのユーティリティボタンを押し、ENCODERを押します。そうすると、元のプリセット画面に戻る前に「PRESET SAVED!」の画面が短く点滅します:

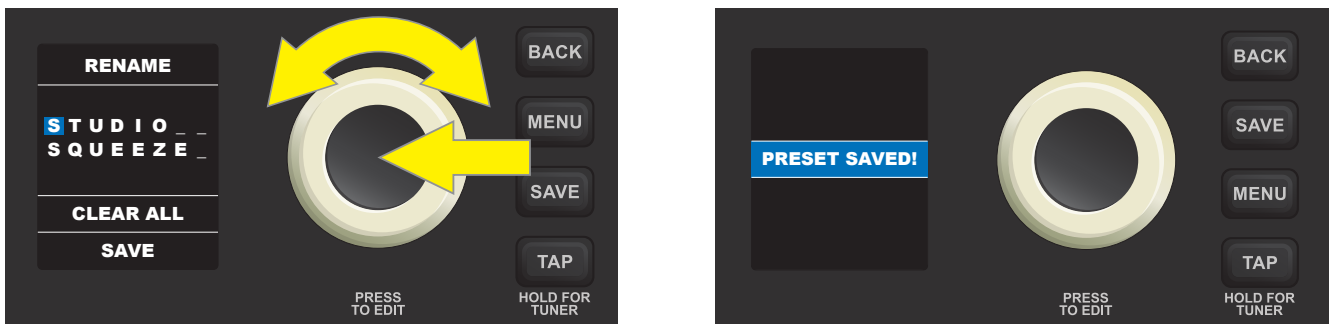


**SAVE AS:** 編集したプリセットを別の名前、または別の場所に保存できます。これを行うには、SAVEのユーティリティボタンを押し、ENCODERを使用して「SAVE AS」までスクロールします。ENCODERを押すと、プリセットを移動できる「CHOOSE SLOT」の一覧にアクセスできます。ENCODERを回して、選択したい新しい場所でエンコーダーを押します:



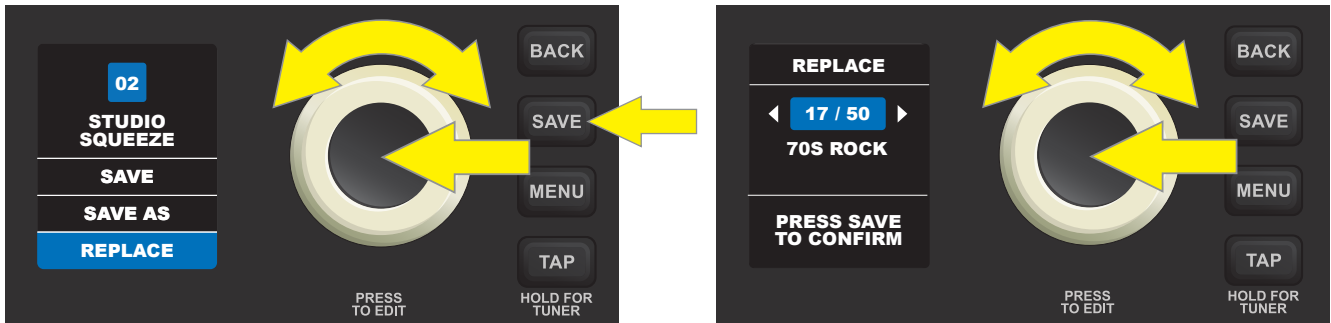
注意:「SAVE AS」を使用する際、編集が行われていない場合でも、プリセットを別の場所に移動できます。プリセットを別の場所に保存すると、更新された場所の以前の内容は、永久に削除されます。

「SAVE AS」を使用する時に、プリセットの名前を変更するかどうかに関わらず、カーソルを有効にするにはENCODERキーを押し、回して名前を入力します。ENCODERをスクロールして「CLEAR ALL」を選択すると、全ての文字を消去できます。新しい場所の名前入力完了したら、SAVEユーティリティボタンを押し、ENCODERを使用してスクロールしてSAVEを選択し、名前を保存します。元のプリセット画面に戻る前に、「PRESET SAVED!」の画面が短く点滅します:





**REPLACE:**既存のプリセットは、SAVEユーティリティボタンを押し、ENCODERを使用して「REPLACE」までスクロールして選択することで、50個の代替プリセット(30個のファクトリープリセットと3ページ記載の追加20個のプリセット)を選択できます。「REPLACE」を選択した後、ENCODERを使用して、50個の利用可能プリセットのいずれかにスクロールします。それぞれが自動的にプレビューされるので、プリセットがロードされる前に、サウンドを聞くことができます。ENCODERを押し、ENCODERで「NO CANCEL」または、「YES REPLACE」までスクロールして選択し、選択したスロットに保存して確定します:



## プリセットに指定したアンプモデルの変更

プリセット内のアンプモデルは、別のモデルに変更可能です(8ページのRumble LT25アンプモデル一覧参照)。ENCODERを押し、プリセットのコンテンツにアクセスすると、現在使用しているモデルがハイライト表示されます。使用アンプモデルのコントロール一覧を表示するには、もう一度ENCODERを押します。これにより、アンプモデルの名前が一覧の一番上に表示されます。

もう一度、ENCODERボタンを押すと、アンプ変更機能が有効になります。アンプ名を囲むボックスが青から赤に変わり、白い矢印がアンプ名両端に表示されます。ここで、ENCODERを回して新しいモデルにスクロールします。アンプモデルの変更を受け入れるには、エンコーダーを押し、アンプ名を囲むボックスが青になったら完了です。または、BACKユーティリティボタン(緑の矢印で表示)を押して、アンプモデルの変更を確定し、プリセット内容画面に戻ります:



**重要:**アンプモデルを変更した情報をセーブしていない状態で他のプリセットへ移動したり、または電源をオフにしてから再びオンにすると、プリセットは元の状態に戻ります。プリセットアンプの変更を保存するには、6ページおよび、本ページ上部記載のSAVE、SAVE AS、REPLACEの指示に従ってください。

## RUMBLE LT25内蔵アンプモデル

この表は、Rumble LT25のアンプモデルの一覧です。各プリセット使用時に表示されるアンプ名は左側、アンプの種類と簡単な説明は右側に記載されています。

### プリセット時のアンプ分類

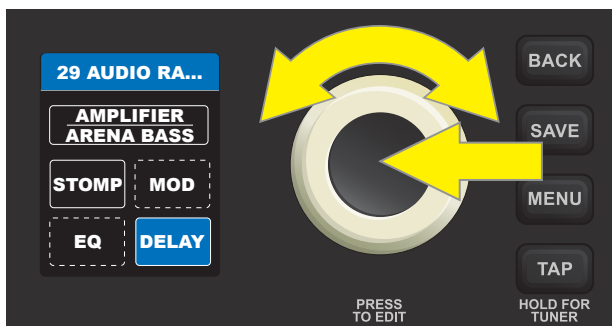
### アンプの種類と説明

<b>STUDIO 1</b>	スタジオ用ミキシングコンソールにダイレクトで繋いだ、歪みのないクリーンなサウンドです
<b>STUDIO 2</b>	上記STUDIO 1と似ていますが、真空管コンソールのようなハーモニクスが強調された音色です
<b>RUMBLE</b>	10インチスピーカーを2発搭載した、フェンダーのベストセラーベースアンプに基づく、すっきりしたクリーンサウンドです
<b>BIG RUMBLE</b>	上記RUMBLEと同じですが、15インチキャビネットによる、力強い低音域の響きを持ちます
<b>WARM COMBO</b>	多くのベーシストが愛用した、60年代半ばのアンペグ社B-15NFがベースです
<b>ARENA BASS</b>	アンペグ社SVTの大きな影響を与えた、オールチューブサウンドにインスパイアされたモデルです
<b>CLEAN BASS</b>	ギャリエンクルーガー社の800RBが備える、80年代/ 90年代のパワーと明瞭さがベースです
<b>SLAP BASS</b>	SWR®社Redheadが持つ、フルレンジでハイエンドな、90年代必須のサウンドにインスパイアされたモデルです
<b>BASS 300</b>	“オールチューブジャイアント”である、フェンダーBassman®300 Proの独特で、用途が広いトーンシェーピングと、ブレンド可能なオーバードライブがベースです
<b>MONSTER</b>	ベース用に再設計された、ハイゲインなオールチューブのブティックギターアンプです
<b>OLD FENDER</b>	フェンダーヴィンテージである、TVフロントBassmanが持つ、オリジナル期を元にした低音が特徴です
<b>SHOWMAN</b>	あらゆる大規模なステージで使用された、60年代/ 70年代フェンダーの伝統的なオールチューブアンプ、Dual Showmanがベースです
<b>GRUNGE BASS</b>	70年代Orangeアンプの至高のスラッジサウンドにインスパイアされました
<b>70S ROCK</b>	典型的な初期のハードロックベースアンプである、60年代後期/70年代初期のマーシャル社Super Bassにインスパイアされました
<b>ANGRY BRIT</b>	マーシャル社のギターアンプ、JCM800の80年代メタルトーンにインスパイアされました
<b>BASSMAN 2K</b>	フェンダーが誇る現在のフラッグシップモデル、Super Bassmanアンプをベースにした、ブレンド可能なチューブオーバードライブです

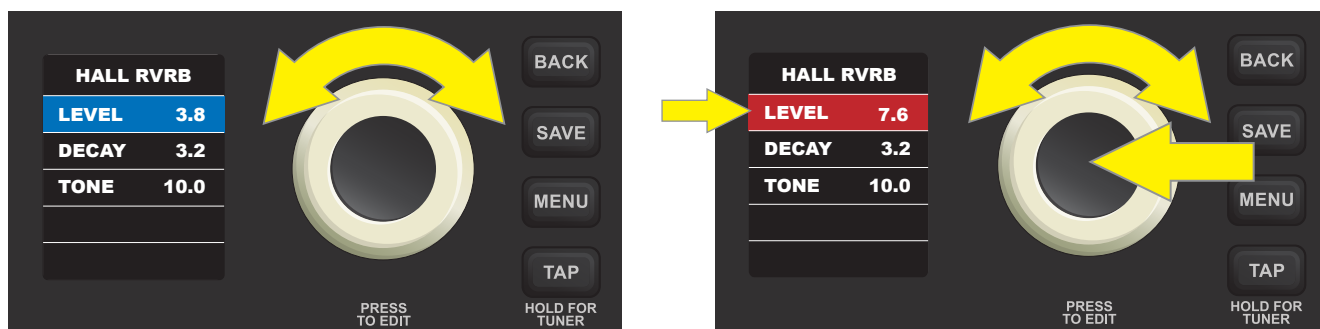
Champ、Deluxe、Bassman、Princeton、Deluxe Reverb、Twin ReverbはFMICの商標です。本マニュアル記載の、その他全てのFMIC以外の製品名、商標はそれぞれ所有者の財産であり、本製品のサウンドモデル開発中に、トーンとサウンドを検討し、識別するためのみに使用されます。これらの製品および、商標の使用は、FMICとの間、および第三者との関係、関連、提携、スポンサーシップ、または承認を意味するものではありません。

## エフェクトコントロール設定の編集と保存

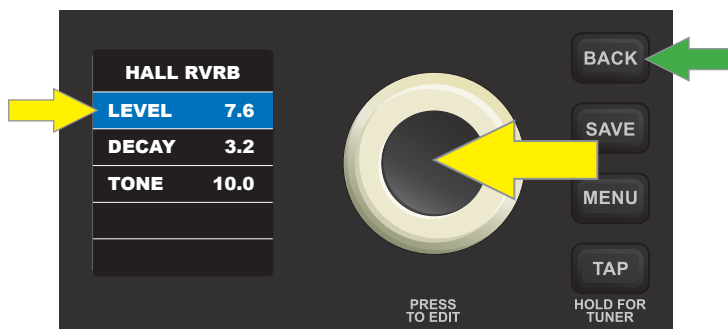
プリセットのさまざまなエフェクト(存在する場合)にある、個々のコントロール設定を編集して保存するには、ENCODERを回して編集するエフェクトまでスクロールし、エンコーダーを押します。それぞれ1つのエフェクトが設定できる、以下の4つエフェクトカテゴリボックスがあります。STOMP(ストンプボックス)、MOD(モジュレーション)、EQ、DELAY:



DISPLAY WINDOWでは、そのカテゴリで使用される、エフェクトモデルのコントロールにおける一覧が表示されます。特定のエフェクトコントロールまでスクロールするには、ENCODERを使用します。ENCODERを押してエフェクトコントロールを選択すると、周囲の枠が青から赤に変わります。そこからENCODERを回して、選択した新しい値を設定します:



この時点で、ENCODERを押して調整したエフェクトコントロール値を受け入れ、編集モードを終了します。すると、周囲のボックスが青に戻ります。または、BACKユーティリティボタン(緑色の矢印)を押して、エフェクトコントロール値の変更を確定し、プリセットの内容画面に戻ります:

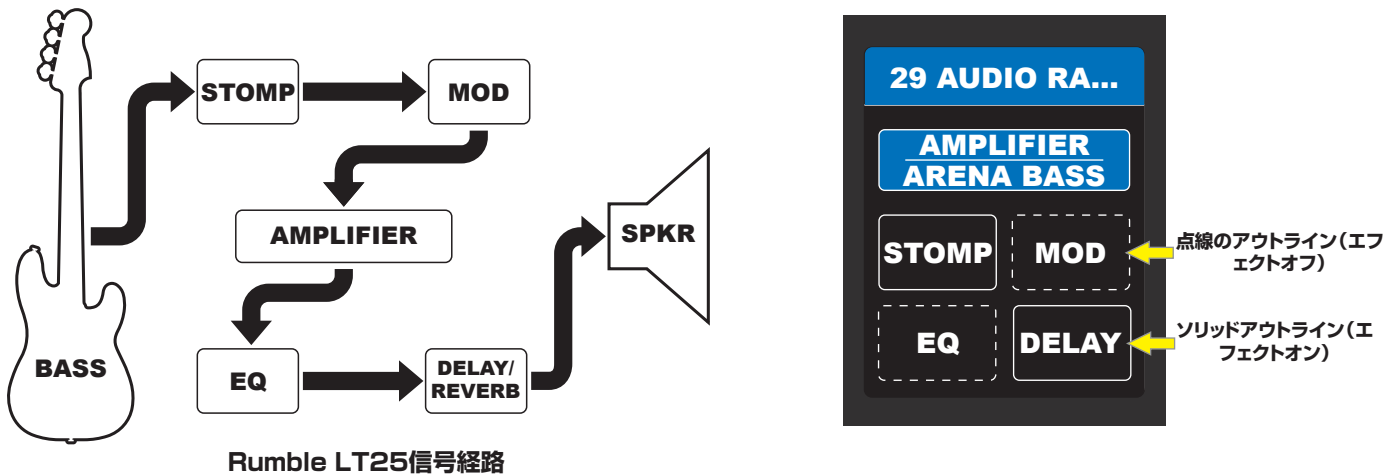


**重要:**編集したエフェクトコントロール設定が保存されていない状態で別のプリセットへ移動した場合や、アンプの電源をオフにして再びオンにした時に、プリセットは元のエフェクトコントロール設定に戻ります。編集したエフェクトコントロール設定を保存するには、6ページと7ページの「SAVE」、「SAVE AS」、「REPLACE」の指示に従ってください。

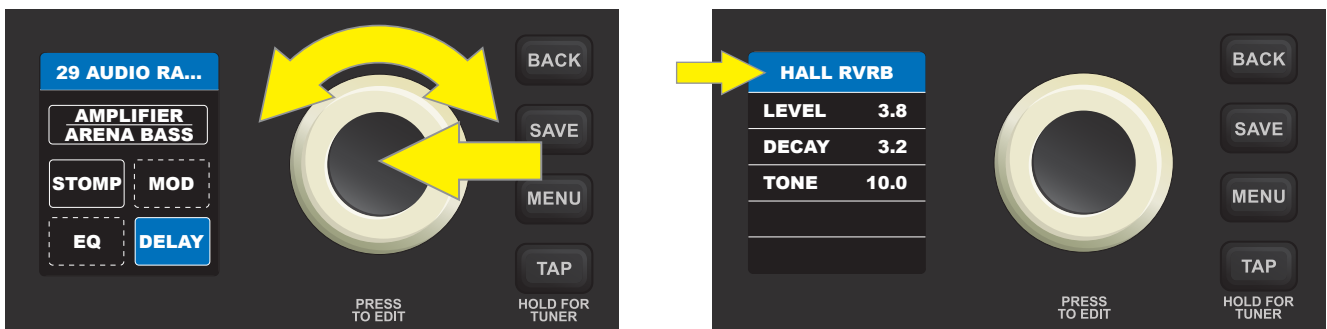
## エフェクトの変更、追加と削除

4つのエフェクトカテゴリボックスでは、それぞれ1つのエフェクトが設定できます。すでにエフェクトが存在する場合、そのカテゴリ内の別エフェクトに変更、または削除が可能です。エフェクトが存在しない場合は、追加できます(13~14ページのRumble LT25エフェクトモデルの一覧を参照)。左図に示すように、信号パスは、Instrument-Stompbox-Modulation-Amplifier-EQ-Delay/Reverb-Speakerです。

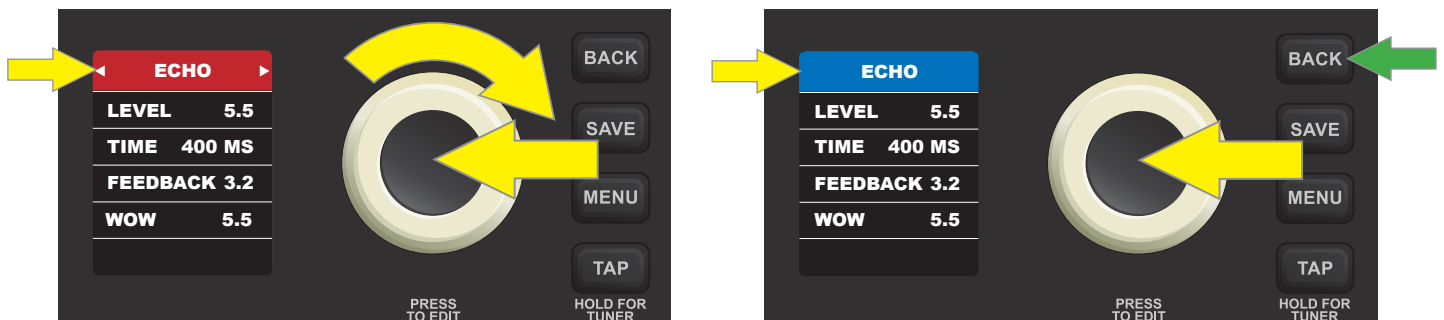
右下の図に示すように、すでに使用中のエフェクトカテゴリボックスの輪郭は、実線で表示されます。また、使用していないエフェクトカテゴリボックスの輪郭は、点線で表示されます：



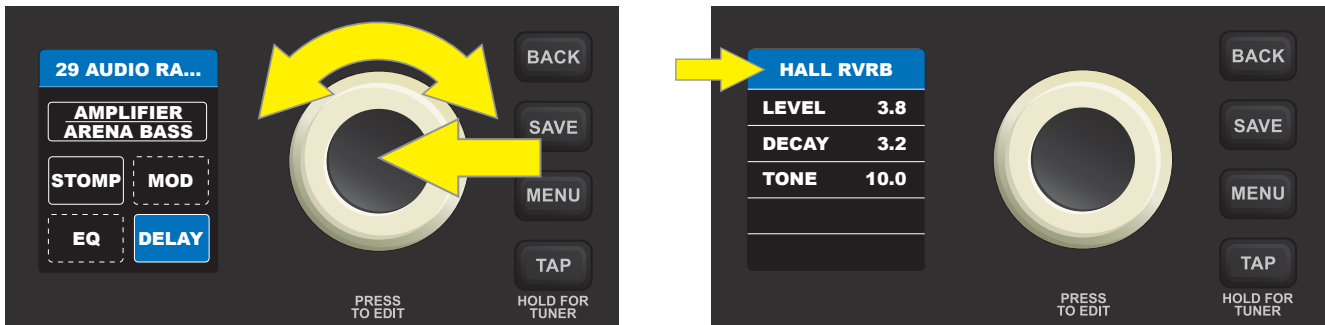
エフェクトを変更するには、その上にあるENCODERを押してプリセットの内容にアクセスします。そして、ENCODERを回して、4つのエフェクトカテゴリボックスの1つにスクロールします。もう一度ENCODERを押すと、エフェクトカテゴリボックスに含まれるエフェクトが表示されます。エフェクトモデルの名前は、表示ウィンドウの上部にハイライト表示されます：



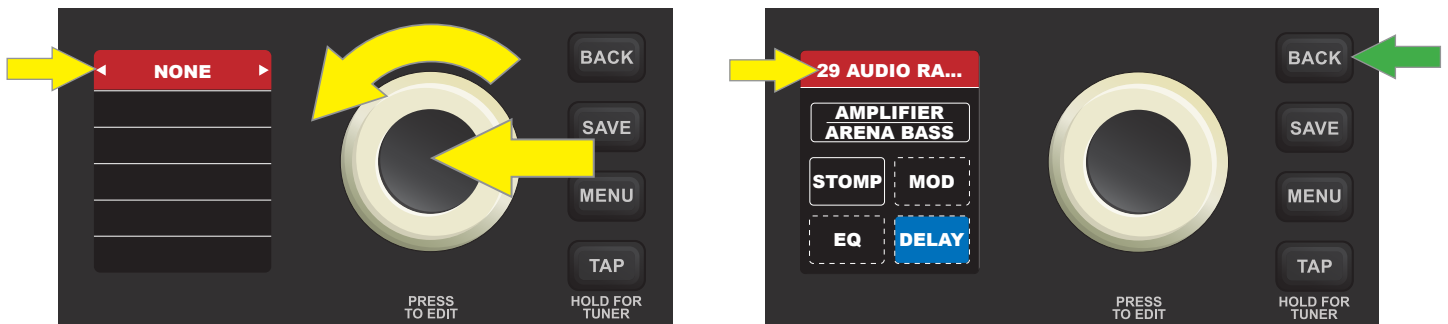
もう1回ENCODERを押すと、エフェクト変更機能が有効になります。エフェクト名を囲むボックスが青から赤に変わり、白い矢印がエフェクト名を囲みます。ENCODERを時計回りに回して、カテゴリ内の他のエフェクトモデルをスクロールします。変更を受け入れて編集モードを終了するには、ENCODERを押します。すると、周囲のボックスは青に戻ります。または、BACKユーティリティボタン(緑色の矢印)を押して置換を受け入れ、プリセットの内容画面に戻ります：



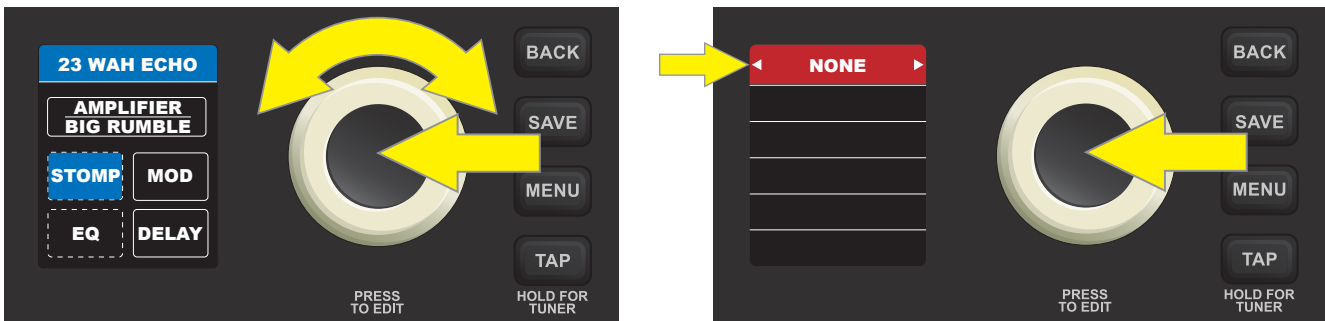
エフェクトを削除する手順は、10ページの手順とよく似ています。前と同じように、ENCODERを押してプリセットの内容にアクセスしてから、ENCODERを回して、使用中のエフェクトカテゴリボックスにスクロールします。もう一度ENCODERを押すと、カテゴリボックスに含まれるエフェクトが表示されます。エフェクトモデルの名前は、DISPLAY WINDOW上部にハイライト表示されます：



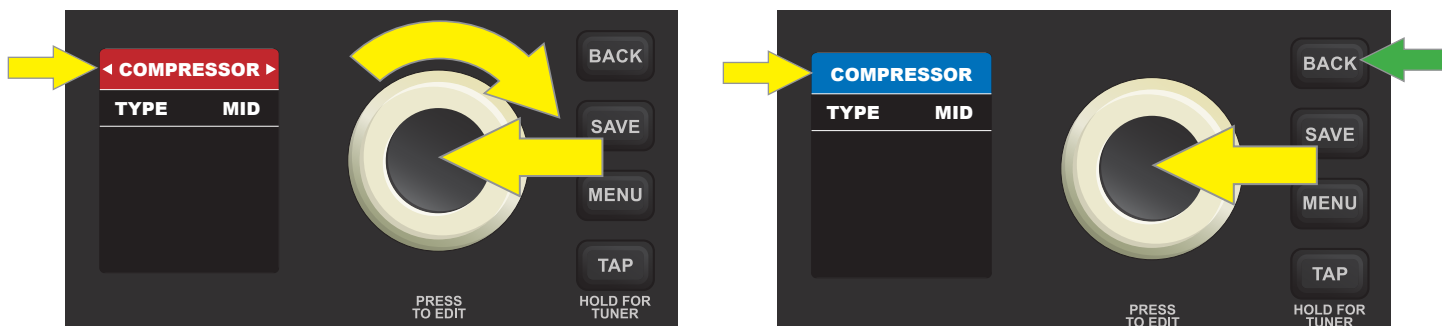
もう1回ENCODERを押すと、エフェクト変更機能が有効になります。エフェクト名を囲むボックスが青から赤に変わり、白い矢印がエフェクト名を囲みます。DISPLAY WINDOW上部の赤くハイライト表示されたエフェクトラベルが「NONE」になるまで、エンコーダを反時計回りに回します。「NONE」でENCODERを押す(またはBACKユーティリティボタンを押す)と、以前に使用していたエフェクトカテゴリボックスが、空のプリセット画面に戻ります：



空のエフェクトカテゴリボックスにエフェクトを追加するには、まずENCODERを押して、プリセットの内容にアクセスします。次にENCODERを回して、空のエフェクトカテゴリボックスにスクロールします。空のエフェクトカテゴリボックスにアクセスするには、もう一度ENCODERを押します。白い矢印で囲まれた赤でハイライト表示されたラベル「NONE」は、表示ウィンドウの上部に表示されます：



ENCODERを時計回りに回して、そのカテゴリのエフェクトモデルをスクロールします。目的とするエフェクトで「ENCODER」を押すと、エフェクト名を囲むボックスが青に戻り、エフェクトカテゴリボックスに、まだ保存されていないエフェクトが追加されます。または、BACKユーティリティボタン(緑色の矢印)を押して、プリセットコンテンツ画面に戻ります(次ページの図を参照)：



**重要:**編集したエフェクトコントロール設定が保存されていない状態で別のプリセットへ移動した場合や、アンプの電源をオフにして再びオンにした時に、プリセットは元のエフェクトコントロール設定に戻ります。編集したエフェクトコントロール設定を保存するには、6ページと7ページの「SAVE」、「SAVE AS」、「REPLACE」の指示に従ってください。

## タップボタンによるディレイタイムの設定

Rumble LT25の「DELAY」エフェクトカテゴリボックスで、ディレイタイムを設定する方法は2つです。1番目の方法は、9ページの「エフェクトコントロール設定の編集と保存」の手順に従ってENCODERをスクロールし、ディレイタイムを含む個々のエフェクト設定を選択、および調整します。

2番目の方法は、Rumble LT25のTAPユーティリティボタン(黄色い矢印)を使うことです。プリセットにディレイエフェクトが含まれている場合、TAP LIGHT(緑色の矢印)が、そのエフェクトのデフォルトのディレイタイムに合わせて点滅します。このタイム設定は、DISPLAY WINDOWに表示される画面に関係なく、TAPユーティリティボタンを指定するテンポで、2回以上タップして変更できます:



**重要:**編集したディレイタイムが保存されていない場合は、プリセットを終了した後にプリセットに戻った時、すなわちアンプの電源をオフにして再びオンにした時に、エフェクトは元のディレイタイムに戻ります。編集したディレイタイムを保存するには、6ページと7ページのSAVE、SAVE AS、REPLACEの指示に従ってください。

## RUMBLE LT25内蔵エフェクトモデル

この表は、Rumble LT25のエフェクトモデルを、STOMP(ストンプボックス)、MOD(モジュレーション)、EQとDELAY/REVERBの各プリセットに表示される4カテゴリに分類してまとめたものです。各プリセットで使用時に表示されるエフェクト名は左側、エフェクトタイプと簡単な説明は右側に記載されています。STOMPとMODは“プリ”エフェクトで、それらは信号経路上アンプモデルの前に配置されます。EQとDELAY/REVERBは、“ポスト”エフェクトで、それらは信号経路上アンプモデルの後ろに配置されます。

### ストンプボックスエフェクト

<b>OVERDRIVE</b>	フェンダーが特別設計した、多様性に優れるオーバードライブです
<b>BLUES DRIVE</b>	70年代後半のアイバニーズ社TS808 Tube Screamerにインスパイアされた、オーバードライブです
<b>BASS DRIVE</b>	Tech21社SansAmp Bass Driverの唸るようなサウンドにインスパイアされたモデルです
<b>ROCK DIRT</b>	プロコ社のRATにインスパイアされた、ディストーションエフェクトです
<b>FUZZ</b>	フェンダーがRumble LT25用に特別設計した、可変式ローエンドレスポンスの汎用性の高いファズです
<b>OCTOBOT</b>	シンセ風のオクターブダウンに、オクターブアップファズを組み合わせた、エフェクトです
<b>COMPRESSOR</b>	ゲイン増幅、スレッシュホールド、アタック、リリースコントロールを搭載したコンプレッサーです
<b>SUSTAIN</b>	MXR社のM-163 Sustainにインスパイアされました。強力なコンプレッション効果と短いアタックタイムを備えた、80年代のレアなコンプレッサーサウンドです
<b>5-BAND EQ</b>	5バンドグラフィックイコライザーです

### モジュレーションエフェクト

<b>CHORUS</b>	三角波のモジュレーションが独特なコーラスエフェクトです
<b>FLANGER</b>	三角波のモジュレーションが独特なフランジャーエフェクトです
<b>VIBRATONE</b>	ロータリースピーカーの揺れを備える、60年代後半～70年代初期のクラシックなフェンダーエフェクトです
<b>TREMOLO</b>	フェンダーPrinceton Reverbなどのアンプで聴くことのできる、滑らかなパルスのチューブバイアストレモロです
<b>PHASER</b>	数多くのレコーディングで聴くことのできる、ジェットサウンドのフランジャーです
<b>STEP FILTER</b>	音符をはっきり交互のステップに分割する、リズムカルなフィルターエフェクトです
<b>TOUCH WAH</b>	エクスペリメンタルペダル操作ではなく、ピッキングのダイナミクスでコントロールするワウエフェクトです

本マニュアル記載の、その他全てのFMIC以外の製品名、商標はそれぞれ所有者の財産であり、本製品のサウンドモデル開発中に、トーンとサウンドを検討し、識別するためのみに使用されます。これらの製品および、商標の使用は、FMICとの間、および第三者との関係、関連、提携、スポンサーシップ、または承認を意味するものではありません。

## EQ

<b>5-BAND EQ</b>	5バンドのグラフィックイコライザーです
------------------	---------------------

## ディレイ／リバーブエフェクト

コントロールパネルのTAPユーティリティボタンとTAP LIGHTは、本カテゴリのエフェクトのみに関連して機能します。

<b>DELAY</b>	クリーン、かつシンプルでピュアなシグナルの反復をします
<b>REVERSE</b>	クラシックなリバースエフェクト効果を得るために、反転したディレイサウンドです
<b>ECHO</b>	アナログでクラシックなマエストロ社のEchoplexをベースにした、テープなディレイエフェクト。テープの歪みによる、独特なフィルター感を表現します
<b>HALL REVERB</b>	大規模なライブ会場や、広い洞窟のような空間をシミュレートする、強く明るいリバーブです
<b>ROOM REVERB</b>	狭い空間、典型的なエコーチャンバーのように典型的で暖かく、エコーの少ないリバーブです

本マニュアル記載の、その他全てのFMIC以外の製品名、商標はそれぞれ所有者の財産であり、本製品のサウンドモデル開発中に、トーンとサウンドを検討し、識別するためのみに使用されます。これらの製品および、商標の使用は、FMICとの間、および第三者との関係、関連、提携、スポンサーシップ、または承認を意味するものではありません。

## メニュー機能

Rumble LT25は、4つの便利なメニュー機能-チューナー、フットスイッチ、設定、復元-を全て備えています。これらは、MENUユーティリティボタンを押すことで、簡単にアクセスできます。最初の機能(TUNER)は自動でハイライト表示されます。ENCODERを使用してスクロールし、MENU機能を選択します。:



**TUNER:** Rumble LT25の内蔵クロマチックチューナーを使用します(15ページ)。

**FOOTSWITCH:** 任意のプリセット2つをハンズフリーで簡単に選択できるように、Rumble LT25のシングルボタンフットスイッチを設定します(16ページ)。

**SETTINGS:** ファームウェアのバージョンを表示します(17ページ)。コントロールパネルのUSBオーディオポートを使用して録音する際に使用する、ゲインコントロールも含まれています(18ページ)。

**RESTORE:** 工場出荷時のプリセットおよび、アンプ設定に復元できます(17ページ)。

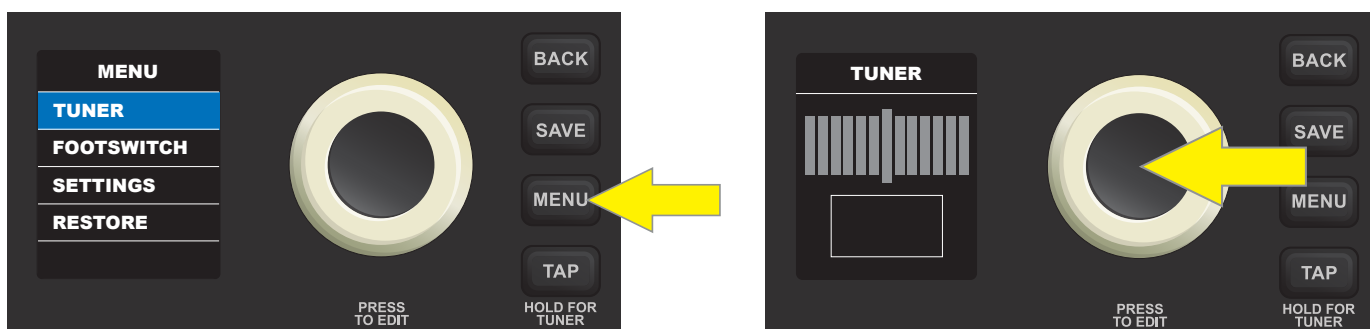


## メニュー機能:チューナー

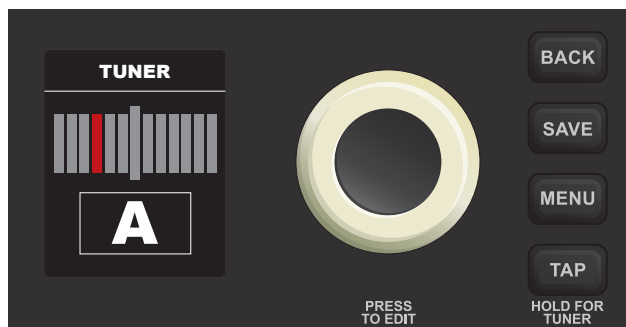
Rumble LT25の内蔵クロマチックチューナーにアクセスするには、2つの方法があります。1番目の方法は、チューナー画面がDISPLAY WINDOWに表示されるまで、コントロールパネルのTAPユーティリティボタンを押し続けることです:



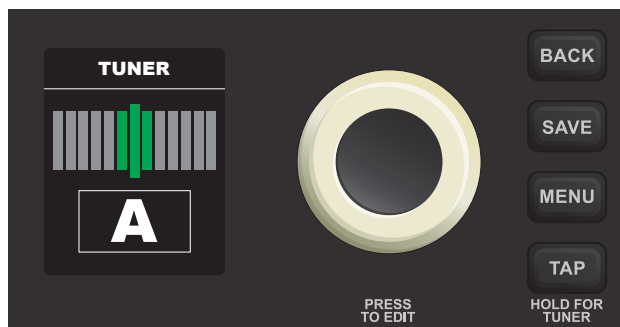
2番目の方法は、コントロールパネルのMENUユーティリティボタンを押すことです。MENU機能の一覧がDISPLAY WINDOWに表示され、TUNER機能が一覧の上に自動的にハイライト表示されます。チューナーのENCODERを押して、チューナー画面にアクセスします:



TUNERを使うには、ギターで音を鳴らします。すると、弾いた開放弦の音名が下のボックスに表示され、長い中央バーの両側にある短い縦バーが赤く点灯し、音程のシャープ程度(右側)、またはフラット程度(左側)を示します。音程が正確に調整されると、中央バーと両側2本の縦バーが緑色に点灯します:



「A」音がわずかにフラットな状態

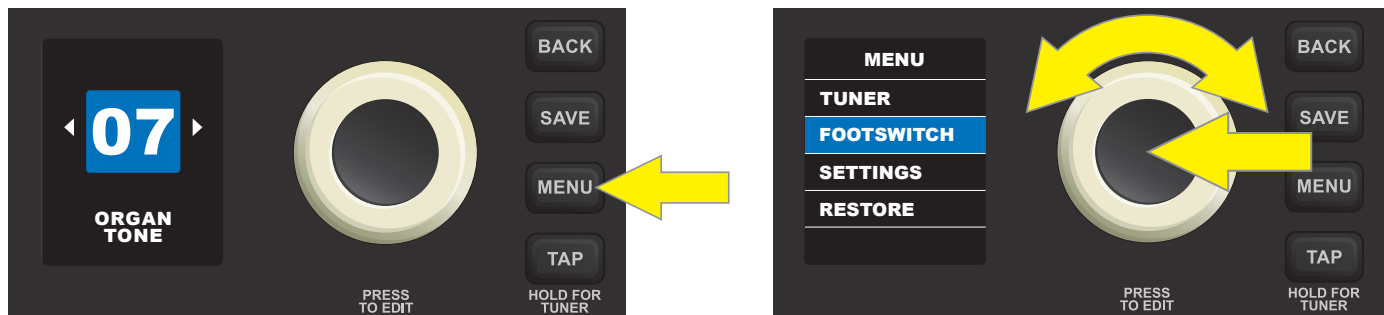


「A」音が正確にチューニングされた状態

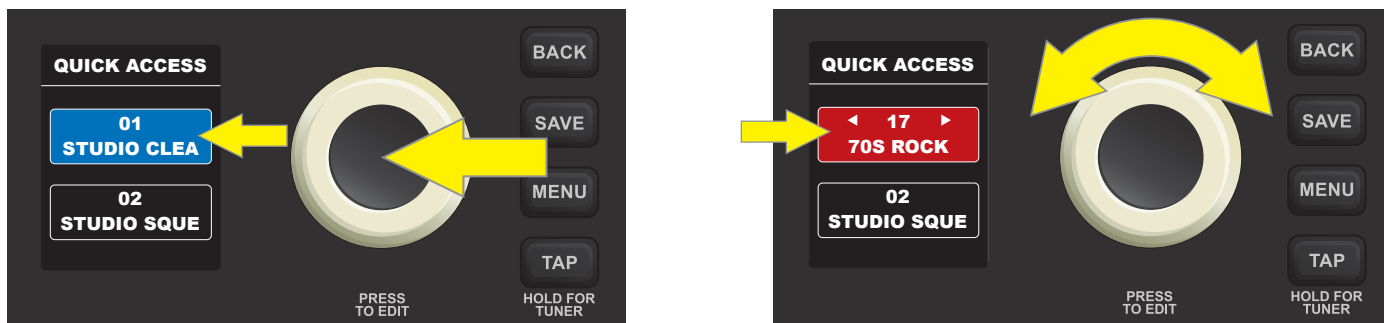
チューニング時はスピーカー出力がミュートされます。TUNERに音程を読み込ませるために、十分な音量で楽器を弾いてください。

## メニュー機能: フットスイッチ

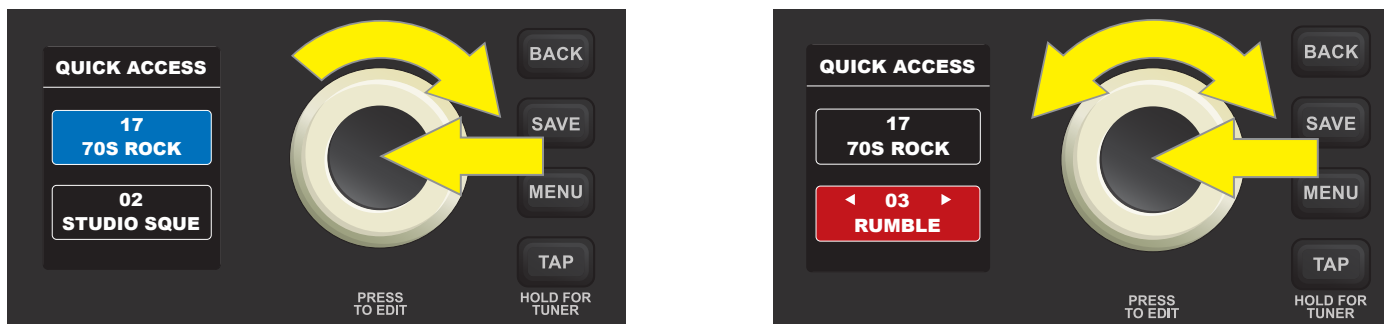
オプションのフェンダーシングルボタンフットスイッチ (PN 0994052000) を、コントロールパネルの「FTSW」ジャックに差し込み接続します。フットスイッチは、あらかじめ決められた2つの「クイックアクセス」プリセット間の便利なハンズフリー切り替えを提供します。メニュー画面2番目に表示される「FOOTSWITCH」で、設定した2つのプリセットに素早くアクセスできます。これを行うには、MENUユーティリティボタンを押して、ENCODERを使用してスクロールし、「FOOTSWITCH」を選択します:



すると、2つのプリセットがヘッダ「QUICK ACCESS」の下にある、DISPLAY WINDOWに表示されます。上部プリセットは自動的に青でハイライト表示されます。上部クイックアクセスで新しいプリセットを選択するには、その上にあるENCODERを押します。そうすると、プリセット名を囲むボックスが赤くなります。ENCODERを使用して、上部クイックアクセス位置の新しいプリセットにスクロールします:



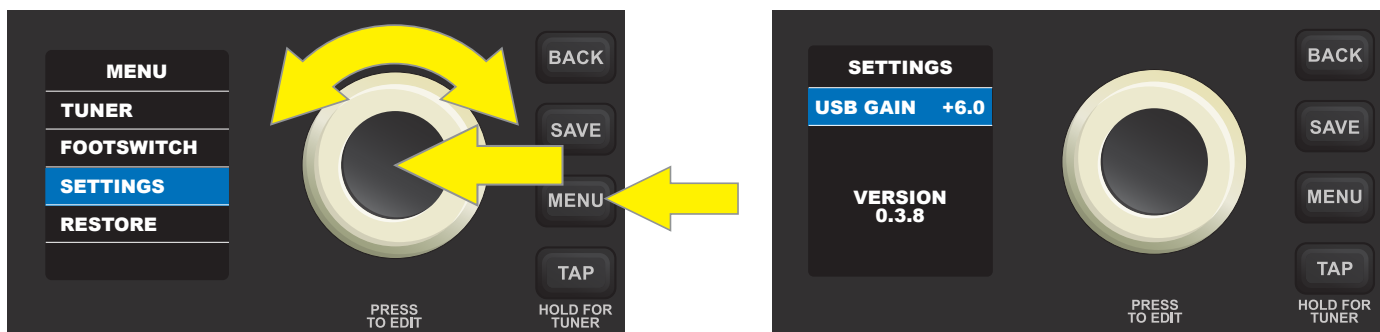
ENCODERを押して、上部に新しいクイックアクセスプリセットを選択すると、プリセット名を囲むボックスが青に戻ります。下部のクイックアクセス位置に新しいプリセットを選択するには、ENCODERを時計回りに回して、下部プリセットのハイライトを表示させてから、上記と同じ手順に従います:



**重要:**クイックアクセスフットスイッチプリセットが保存されていない場合は、クイックアクセスプリセットスロットは、終了後にプリセットに戻る時、またはアンプ電源をオフにして再びオンにする時に、元の内容に戻ります。クイックアクセスのフットスイッチプリセットを保存するには、6ページと7ページの「SAVE」、「SAVE AS」、「REPLACE」の指示に従ってください。

## メニュー機能:セッティング

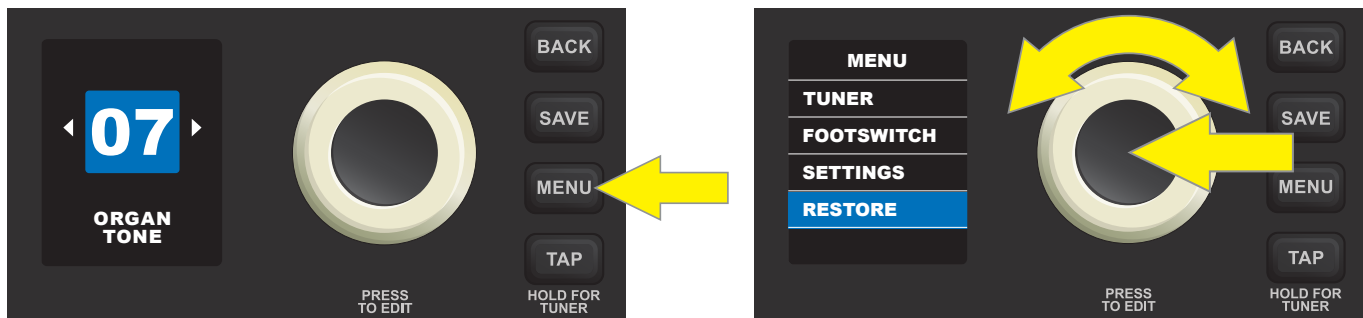
3番目のメニュー機能「SETTINGS」は、現在のファームウェアバージョンを表示し、コントロールパネルのUSBポートを使いレコーディングする際に使用するゲインコントロールを備えています。これらのオプションにアクセスするには、MENUユーティリティボタンを押し、ENCORDERを使用してスクロールし、SETTINGを選択します。USBゲインコントロールが上部に表示され(18ページの「USBポート」の説明を参照)、下のファームウェアバージョン(「VERSION」)が表示されます:



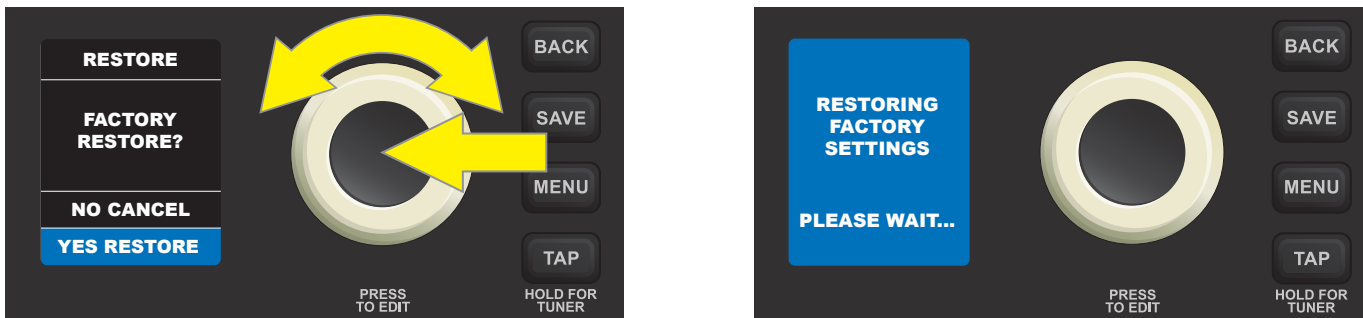
Rumble LT25の操作性を向上させるためのファームウェアの更新がないか、定期的に[fender.com/firmware/support](https://www.fender.com/firmware/support)を確認してください。

## メニュー機能:リストア(復元)

4番目のメニュー機能「RESTORE」は、工場出荷時のプリセットとアンプ設定を全て復元できます。これを行うには、MENUユーティリティボタンを押し、ENCORDERをスクロールし、RESTOREを選択します:



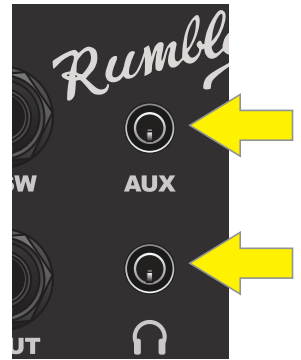
復元を開始するには、ENCORDERをスクロールして「YES RESTORE」を選択します。復元をキャンセルするには、「NO CANCEL」でENCORDERを押すか、BACKユーティリティボタンを押します。復元が進行中の間、青い待機画面が少しの時間表示されます。復元が完了すると、最初のプリセット画面に戻ります:



## AUX入力とヘッドフォン出力

Rumble LT25のコントロールパネルは、2つの1/8インチジャックを備えています。外部のモバイル/オーディオ機器を接続するAUX入力と、便利なヘッドフォンを使用するための出力です。

AUX入力を使用する場合、外部機器の音量レベルは、外部機器自体の音量コントロールを使用して設定されます(アンプの音量コントロールは全体の音量レベル専用で、AUX入力に接続される外部機器の個々の音量には影響しません)。ヘッドフォンを接続すると、スピーカー出力はミュートになります。

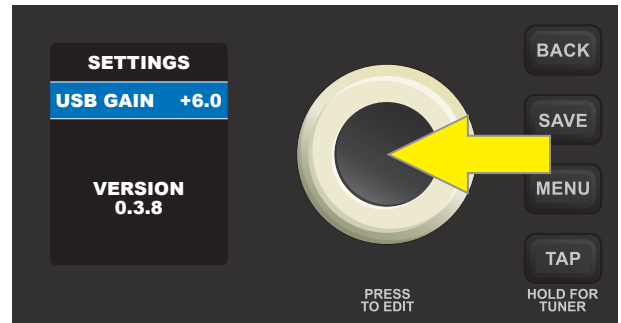
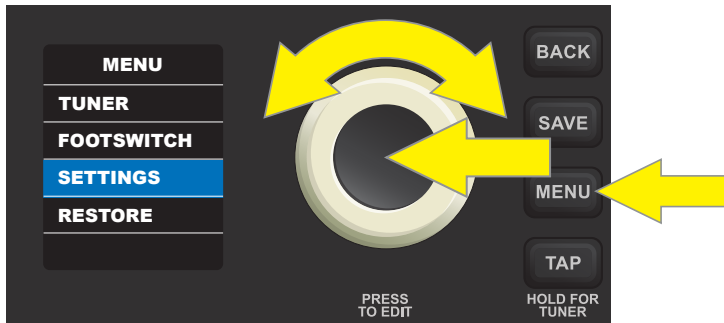


## USBポート

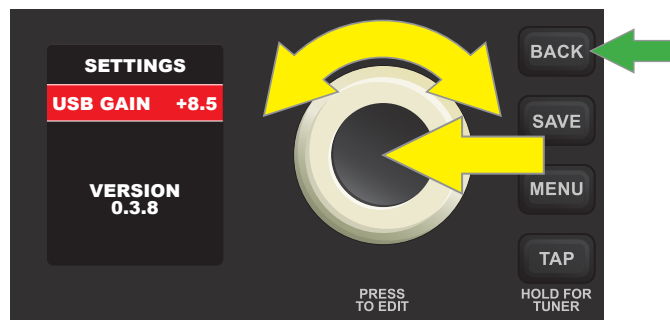
Rumble LT25のコントロールパネルは、オーディオ録音用のUSBポートを備えています。マイクロUSBケーブル(別売)を使用して、録音ソフトウェアを搭載したコンピュータをこのポートに接続します。Appleコンピュータに接続する場合、外部ドライバは必要ありません。Windowsベースのコンピュータに接続する際、ユーザーは[www.fender.com / support / articles / fender-universal-asio-driver](http://www.fender.com/support/articles/fender-universal-asio-driver)で入手可能な、Fender Mustangデバイス付きASIOドライバセットアップをダウンロードする必要があります。

USBポートとAUX入力は同時使用できますが、USBポートを使用してAUX入力からの信号を記録することはできません。

USBポートを使って録音する際のゲインコントロールは、SETTINGSメニュー機能の中にあります。17ページを参照してください。このゲインコントロールにアクセスして使用するには、MENUユーティリティボタンを押して、ENCODERをSETTINGSまでスクロールし選択します。すると「USB GAIN」が自動的にハイライト表示されます。「USB GAIN」のENCODERを押して選択します。周囲のボックスは青から赤に変わります:



ENCODERを回して新しい「USB GAIN」値を設定します。ENCODERを押して、新しい値を承認させることで、周囲のボックスが青に戻ります(表示されません)。または、BACKユーティリティボタン(緑色の矢印)を押して新しい値を確定し、MENU機能画面に戻ります:



USB設定に影響を与えるのは、設定メニュー機能の「USBゲイン」コントロールだけです。コントロールパネルに実際存在するGAINコントロールノブは、USBレコーディングには影響しません。

## SPECIFICATIONS



<b>TYPE</b>	PR 5250
<b>POWER REQUIREMENTS</b>	84 watts
<b>POWER OUTPUT</b>	25 watts into 8 $\Omega$
<b>INPUT IMPEDANCE</b>	1M $\Omega$ (instrument)    15k $\Omega$ (aux)
<b>SPEAKER</b>	One 8" Fender Special Design speaker (8 $\Omega$ )
<b>FOOTSWITCH</b>	Fender 1-Button Economy On-Off Footswitch (optional, PN 0994049000)
<b>DIMENSIONS AND WEIGHT</b>	Width: 15.3" (38.9 cm)    Height: 16.4" (41.6 cm)    Depth: 11" (28 cm)    Weight: 19.25 lbs. (8.7 kg)

*Product specifications subject to change without notice.*

Rumble LT25の操作性を向上させるためのファームウェアの更新がないか、定期的に[fender.com/firmware/support](https://www.fender.com/firmware/support)を確認してください。

**PART NUMBERS / REFERENCIAS / RÉFÉRENCE / NÚMERO DAS PEÇAS / NUMERO PARTI / TEILENUMMERN  
NUMERY REFERENCYJNE / REFERENČNÍ ČÍSLA / REFERENČNÉ ČÍSLA / REFERENČNE ŠTEVILKE / 部品番号 / 型号**

**Rumble LT25**

2270100000 (120V, 60Hz) NA  
2270101000 (110V, 60Hz) TW  
2270103000 (240V, 50Hz) AU  
2270104000 (230V, 50Hz) UK  
2270105000 (220V, 50Hz) ARG  
2270106000 (230V, 50Hz) EU  
2270107000 (100V, 50/60Hz) JP  
2270108000 (220V, 50Hz) CN  
2270109000 (220V, 60Hz) ROK  
2270113000 (240V, 50Hz) MA

**产品中有害物质的名称及含量**

部件名称	有害物质					
	铅 (Pb)	汞 (Hg)	镉 (Cd)	六价铬 (Cr(VI))	多溴联苯 (PBB)	多溴二苯醚 (PBDE)
箱体	O	O	O	O	O	O
喇叭单元*	O	O	O	O	O	O
电子部分	X	O	X	O	O	O
接线端子	X	O	O	O	O	O
电线	X	O	O	O	O	O
附件	O	O	O	O	O	O

本表格依据 SJ/T 11364 的规定编制。  
O: 表示该有毒有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在 GB/T 26572 规定的限量要求以下。  
X: 表示该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出 GB/T 26572 规定的限量要求。  
注: 含有有害物质的部件由于全球技术发展水平限制而无法实现有害物质的替代。

\*产品含有喇叭单元时有效。

A PRODUCT OF  
FENDER MUSICAL INSTRUMENTS CORP.  
311 CESSNA CIRCLE  
CORONA, CALIF. 92880 U.S.A.

AMPLIFICADOR DE AUDIO  
IMPORTADO POR: Fender Ventas de México, S. de R.L. de C.V.  
Calle Huerta #279, Int. A. Col. El Naranjo. C.P. 22785. Ensenada, Baja California, México.  
RFC: FVM-140508-CIO  
Servicio al Cliente: 01(800) 7887395, 01(800) 7887396, 01(800) 7889433

Fender®, Rumble™ and Mustang™ are trademarks of FMIC.  
Other trademarks are property of their respective owners.  
Copyright © 2019 FMIC. All rights reserved.